

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
1	使命・役割・テーマ・理念	博物館への新たな社会適用性として、防災を通じての地域の活性化、コミュニティの再生がある。新博物館が防災の学習機能を持つことにより、全県的に自主防災の活動と連携し、地域の活性化を促進していくことに大いにつながる。	C	新博物館は、地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献することを使命としており、防災に関しても県や市町の担当機関などと連携し、交流展示などにおいて、啓発活動と併せた取組を行っていきます。
2	使命・役割・テーマ・理念	博物館は高度な人ばかり行くのではなく、楽しく好奇心を満たしてくれるものから出発でなくてはならない。県民が美術館、文化会館へは足を運ぶが、博物館へ足を向けないのは、博物館が難しい、楽しめないというイメージがあるからだ。	A	県民・利用者みなさんが主体的に活動し交流するための中核的な場として、交流創造エリアを設け、誰もが気軽に訪れることができ、新しい発見・驚き・知的な好奇心へと誘う場としていきます。
3	使命・役割・テーマ・理念	図書館や水族館にはない博物館の特色を守っていかなければならない。	A	三重の自然と歴史・文化の資産について調査研究、収集保存し、これらを通して得られる成果を活用発信する活動は、他の文化施設にはない博物館独自のものです。新博物館では、地域に根ざした博物館活動を、県民・利用者みなさんとの協創により進めていきます。
4	使命・役割・テーマ・理念	博物館の新設は、本当に希望します。色んな意見を聞いて、県民の足が向く博物館、愛される博物館として生まれ変わって欲しい。	A	博物館のあらゆる活動を県民・利用者みなさんに開き、一人ひとりが主体的に活動し、自己実現を図ることができる場となる博物館としていきます。
5	使命・役割・テーマ・理念	新しい博物館の1番の目玉、売りは何か。22世紀を見据えた博物館の整備をお願いしたい。	B	博物館の活動を行っていく際に大切にすべきこととして、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動理念としています。今後は、設計や開館後の博物館活動の中で具体的に展開していきます。
6	使命・役割・テーマ・理念	県民の長年に及ぶ念願だった大文化事業なので、最後まで情熱的に取り組んでほしい	E	県民・利用者みなさんの期待に沿うよう、取り組んでいきます。
7	使命・役割・テーマ・理念	目先のものや歴史にとらわれず、新しい発信を実現するようにしたい	A	三重の自然と歴史・文化を総合的に深め、明らかにする博物館として、他地域との連携・交流の取組を通じて、三重を発信し、新たな創造につなげる役割を果たします。
8	使命・役割・テーマ・理念	子どもが興味を持てば、親はついてくる。子どもが夢をもてるものでないといけない。	A	体験展示をはじめ、交流創造エリアの具体的なあり方など、子どもにとって楽しく、知的探求に取り組めるような博物館に今後充実させていきます。また、子ども会議(仮称)などを設け、子どもたちのアイデアや要望も取り入れていきます。
9	使命・役割・テーマ・理念	テーマである三重が持つ「多様性の力」は論理的・科学的に見て間違った言葉である。「多様性」には力が元々ないのであり、周囲の状況により何らかの変化が生じる可能性があるに過ぎないものである。従ってテーマは、「三重が持つ『多様性』」や「三重の特長『多様性』」などでなければならないはずである。	B	「多様性の力」については、今後、より具体的にわかりやすくお示しするよう工夫していきます。また、県民みなさんとともに三重の多様性を探求することで、生み出される力を三重への愛着と誇りにつなげるとともに、他地域に向けたメッセージとして発信していきます。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
10	使命・役割・テーマ・理念	自然・人文両方の総合的な博物館構想(計画)をお願いします。	A	地域の自然や暮らしを理解し、今に生かし、未来へつないでいくために、分野横断的・総合的に捉えた博物館活動を展開します。
11	使命・役割・テーマ・理念	県立の博物館として、三重の自然を基本に歴史・文化を含めて楽しみ理解できる博物館としてほしい。	A	三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力をさまざまな切り口で紹介する展示や交流創造などの活動を積極的に展開していきます。
12	使命・役割・テーマ・理念	名古屋市科学館(生命館、科学館、宇宙館)のような施設にする予定はないのか	C	基本展示においては名古屋市科学館のような常設の展示は予定しておりません。テーマ展示などではそのような要素も含めて今後検討していきます。
13	使命・役割・テーマ・理念	犬山市の明治村を含めた全市博物館構想を参考にされたい。	B	新博物館建設予定地の周辺には、県総合文化センター(文化会館、図書館、生涯学習センター等)や美術館、学校、大学等があり、これらの施設との連携による事業展開等については、他府県の取組を参考に検討していきます。
14	使命・役割・テーマ・理念	三重の文化である街道やお伊勢さんは、博物館資料として当然とりあげるものなので、それを売り物(目玉)にするより、自然と人間の協創による未来文化の創造に向けた特色あるハードとソフトの一体化が必要。	B	三重の自然と歴史・文化は多様かつ豊富であり、ご提案のように、街道やお伊勢神宮だけを取り上げれば足りるというものではないと考えています。基本計画では、新県立博物館の基本理念として、「新しい“総合”の観点で展開する」ことを掲げ、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉えることとしています。それらの保全に対する関心や活動の輪を広げるような活動を進めたいと考えています。
15	活動計画(調査研究)	萬古焼は、四日市で現在はひとまとめになっている。萬古焼の歴史から言っ、古萬古 - 有節萬古 - 桑名萬古・四日市萬古と流れて来ている。こういった事は、市にまかせるのではなく県として新しい位置付けをしてほしいと思う。三重県には伊賀焼と萬古焼といった江戸時代以前からある焼物がある。歴史の解明と展示を県の仕事として、新博物館に期待したい。	B	新博物館では、調査研究活動として、三重の自然と歴史・文化の資産について調査研究することにより三重の魅力をも明らかにすることとしています。萬古焼も、三重を代表するの貴重な歴史・文化資産の一つであり、今後、調査研究活動を具体的に計画する中で、その歴史の解明や展示についても検討していきます。
16	活動計画(調査研究)	「県民学芸員」の資格としては、例えば大学で専任教授、助・准教授、講師として数年以上の勤務者を面接程度で採用してほしい。	B	「県民学芸員(仮称)」については、三重の自然と歴史・文化などに関する専門的な知識や技術を持ち、博物館の調査や研究などの活動に参画する県民・利用者を想定して記述したものです。その具体的なあり方については、今後検討していきます。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
17	活動計画(収集保存)	博物館の四つの機能(収集、保存、調査研究、展示・活用・教育普及)の内、現在の施設では保存、調査研究等が十分になされているとは思えない。本日の会議の説明では活用の理念に傾きがちであったように思うが、予算や県民の不理解等問題があるのであれば、とりあえず28万点の貴重な資料がBESTな状態で保存していける収蔵施設の建設が先決であると考ええる。劣化してしまった資料は元にはもどらない。次にそれらの十分な研究がなされ、結果、教育や展示に役立てることができるのではないかと。双方向性が重視される時流ではあるが、それにこびる必要はないと思う。博物館の基本は学芸部門の充実にこそあるので、人材や設備の面で今後検討を重ねてほしい。	B	三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かすことを新博物館の使命としています。ご指摘のとおり、博物館における資料の収集と適切な管理は、博物館活動の基本であり、博物館だからこそ果たせる機能と考えています。今後、そのための体制や施設の整備について、具体的な検討を行ってまいります。
18	活動計画(収集保存)	収蔵エリアが多い(他県に比して)という説明だったが、各部門別の要望が満たされるものか。	B	資料を良好な状態で次代に引き継ぐため、資料の材質・性質・状態に応じた適切な保存環境を整備します。また、将来の資料の増加に対応できるよう配慮します。
19	活動計画(収集保存)	県内各所で自然が急激に変化していることへの緊迫感が感じられないが、これで自然資料の収集保存は大丈夫なのか不安を感じる。	A	三重の自然と歴史・文化を保全・継承し、次代へ生かすことを新博物館の使命としております。とりわけ、自然に関する資料については、県内に自然分野を専門とする博物館が少ないことから、新博物館が中心的な収集保存の役割を担う必要があると考えています。
20	活動計画(収集保存)	文学関係に関して、当面は、図書館展示室の展示でいたしかたないが、資料の収納に困っている現状である。すぐに文学館建設とはいわないが、将来の文学館像につながる今日の発想でなければならぬと切望する。	B	新博物館では、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉えた博物館活動を展開することとしており、収集保存活動にあたっては、三重のありよう・履歴を理解するために必要な自然と歴史・文化に関する資料をその対象として位置付けています。文学関係の資料にも、さまざまな性格なものがあり、地域との関わり方もさまざまであると考えられますが、いずれも貴重な文化資産であると受け止めています。今後、全県的な視野に立ち、県内の博物館をはじめ図書館などの関係施設と協議するとともに連携した取組を行うなど、文学資料の適切な保存と活用のあり方についても、検討していきたいと考えています。
21	活動計画(交流創造)	四日市市博物館は学芸員がボランティアを熱心に指導していること、講座が多いこと、子どもが無料であるため子連れが多いことなどによりたくさんの方が集まってくる。このような博物館がよい。	A	新博物館では、県民・利用者との「協創」の視点と多様な主体との「連携」の視点で博物館活動を展開させていくこととしています。今後、ご提案のような観点も踏まえて、県民・利用者のみならずが主体的に活動し交流できる博物館づくりを進めてまいります。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
22	活動計画(交流創造)	青少年の博物館活動への参加を増やすにはワークショップ等を多く行うと関心が高まる。	A	新博物館では、三重の未来を担う子どものための次世代育成の場としての役割を果たすこととしています。そのために、ご提案のようなワークショップをはじめ、世代を超えた交流の中で、三重の自然と歴史・文化を楽しみながら学習し、体験できる機会をつくることのできる取組を積極的に展開していきます。
23	活動計画(交流創造)	私達は常日頃防災に対して活動しているが、次世代に向けての防災に対する資料の展示や防災子供教育の語り合える場所がない。来年は、伊勢湾台風50年であり、地震も来るかもしれない。災害が多い三重県で北から南まで子供達と、新博物館の一室でどうするかを考えられるようにしたい。	A	交流創造エリアでは、県民・利用者みなさんが三重の自然と歴史・文化に関する情報を活用して、主体的な活動・交流をしていただく場をしたいと考えています。また、防災に関する展示については、テーマ展示の中で県諸施策との連携展や県民協創交流展として検討していきます。
24	活動計画(展示)	津に作る博物館であり藤堂高虎の展示室があるとよい。また、展示内容に県民が興味をものを計画することが大切である。	C	新博物館では、多様性の豊かな三重のあらましを紹介する「基本展示」と、いくつかの展示を組み合わせさまざまな視点から三重の魅力を発信する「テーマ展示」を中心に展示を構成することとしています。ご提案の分野に関する展示については、テーマ展示の中で検討していきます。
25	活動計画(展示)	来場者の興味・話題・感動・収益を呼び起こすため、スポーツ関係のコーナーの併設まで考えてほしい。	C	
26	活動計画(展示)	廃藩置県以降(明治4年以降)の常設展を充実させてほしい。	C	
27	活動計画(展示)	移動展示は見る者にとってお金もかからず、時間もとらず、特に高齢者や幼児にとっても疲れが少ない。全県民にとって最も利益があるのではないか。三重の自然、特に熊野灘、伊勢神宮樹林、鈴鹿山系など十分活用してほしい。	A	新県立博物館では、博物館活動を地域に広げる活動の一環として、展示活動においても「館外での展示」に積極的に取り組むこととしています。県内に博物館等とも連携しながら、身近な地域で展示に触れていただく機会の充実に努めていきます。
28	活動計画(展示)	例えば、1つの展示物、1人のゲスト出演、1枚のスクリーン(写真)で来場者を呼ぶことも十分検討してほしい。	B	基本計画では、展示活動について、基本的な考え方を示しましたが、今後、具体的に展示の内容を計画する中で、ご提案のような観点についても検討していきます。
29	活動計画(展示)	新博物館に半日いたら、三重県域の自然史、地質、文化史、政治史などの概要がわかるような展示・解説がほしい。	B	新博物館では、「基本展示」において、多様性の豊かな三重のあらましを紹介することとしており、その中で、三重県の自然と歴史・文化の概要をご理解いただけるよう努めていきます。
30	県民・利用者との協創	現博物館のサポートスタッフのような博物館を支える団体づくりを行う必要がある。ミュージアムサポートとして美術館・博物館統合の大きな団体を作り、それを美術館、博物館に分割して支部団体をつくるのがよい。	B	基本計画でも、すでに活動を展開している現博物館の「みんなの博物館サポートスタッフ」などの取組を、新博物館の活動につなげ、発展させていくとしています。また、ボランティアや友の会をはじめとした協力支援組織や運営協議会などのあり方を検討します。
31	連携	学校教育(小学生・遠足)や観光面で検討してほしい。	A	学校の学習の一環として博物館を利用すると同時に、子どものうちから博物館に親しみ、博物館活用の方法を身につける、学校教育との連携活動を展開します。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
32	連携	巡回展の開催など、国立博物館(奈良、京都、東京)との連携の計画はあるか	B	全国や世界の博物館等と連携し、三重を発信し、新たな創造につなげることは県立博物館としての役割であると考えています。また、テーマ展示では全国巡回展の開催も検討していきます。
33	連携	国立博物館との交流は難しいが大丈夫か。	B	
34	連携	博物館(県内の私立博物館)に焦点をあてて(連携して)ほしい	A	専門性・地域性の高い県内の各博物館と、総合性の高い新博物館のそれぞれの特色を生かすネットワークを構築し、連携した活動を展開します。
35	施設計画(敷地、建築)	ユニバーサルデザインを考えたものにしてほしい。	A	新博物館は、ユニバーサルデザインに配慮し、すべての利用者が安全で快適に利用できるよう進めていきたいと考えています。具体的な内容や進め方については、設計段階で検討します。
36	施設計画(敷地、建築)	館長やスタッフが常駐する部屋に閉じこもるのではなく、すぐにお客さんが聞きたいことを聞ける、オープンな部屋にして欲しい。気さくに声がかげられ、わからないことがなくても「どうやって博物館を楽しんだらいいの?」と聞きやすい雰囲気づくりをお願いしたい。	B	基本計画では、だれもが気軽に訪れ、利用できる活動や施設づくりを行うことが随所に記述されています。特に、相談などへの対応が多い交流創造エリアでは、だれもが気軽に訪れ、対話や交流が活発に行われ、活気ある場となるよう工夫します。
37	施設計画(敷地、建築)	公文書館機能一体化により収蔵庫の不足が懸念されるという意見を出したところ、「現地保存主義」を原則とするという回答であった。自然系においては県内に博物館がほとんどなく「現地保存」はむづかしい。自然系機能や収蔵庫の充実をお願いしたい。	C	新博物館には堅固で十分な広さの収蔵庫を整備したいと考えていますが、広さには限りがあり、無制限に資料を保存することはできません。県立博物館としての資料収集の方針を定めた上で、県内の他の博物館等とのネットワークを構築し、パートナーシップに基づく役割分担を行い、収集保存にあたっていきなると考えています。なお、県内に自然分野を専門とする博物館が少ないことから、新博物館が中心的な収集保存の役割を担う必要があると考えています。
38	施設計画(敷地、建築)	風水害対策をしっかりとってほしい(建設中に台風等の被害をうけ規模が縮小されることのないように)。	B	建築中の防災については、工事を行う際の基本として、取り組んでいきたいと考えています。
39	施設計画(敷地、建築)	交通アクセスについて、バス便の増便(1時間に3本~4本)をお願いする。	C	アクセスについては、誰もが使いやすくなるよう、また、公共交通機関の利用促進による環境負荷軽減の意味からも、利便性が良くなるよう努めます。具体的な内容については、今後とも関係機関等と協議します。
40	施設計画(敷地、建築)	手狭で最低限でも維持できるものをお願いする。	A	施設を整備する上では、合理的・効率的な構造・仕様となるよう設計段階で十分検討するとともに、計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費等の軽減をめざします。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
41	施設計画(敷地、建築)	総合文化センターから最も近いところに、JR紀勢線と伊勢鉄道の共同駅の設置を提案する。今であれば、総合文化センターから500m程度の場所に駅舎用地を確保できそうだ。	D	ご提案頂いた新駅の設置は、アクセスの面で大変有効ですが、設置については鉄道経営者の判断によるところであり、現実的には難しいと考えられます。
42	施設計画(敷地、建築)	利用者の動線の整理・効率化の具体案が見えてこない。	B	具体的な動線計画については、設計段階で設計者などと協議しながら検討を進めます。基本計画では動線の整理、効率化を図るという考え方を記述しております。
43	施設計画(敷地、建築)	博物館は必要だと思うが、建物ばかり立派な物を建てなくてもよい。体験型ミュージアム、喫茶室等も充実してほしい。	B	基本計画では、新博物館は参加・体験型の博物館とすることとしており、また、飲食スペースについては、快適な博物館とするために必要な機能と考えています。建物のデザインや具体的な機能などについては今後設計段階で検討します。
44	施設計画(敷地、建築)	場所は駅の近くが望ましい。	D	昨年度策定しました「新県立博物館基本構想」にも示しましたとおり、立地場所については、図書館、美術館、文化会館などの県の文化振興拠点との連携、アクセスの利便性、用地取得の可能性に加え三重県の人口重心(総務省統計局)から、県総合文化センターの南東側としています。 なお、公共交通機関を用いたアクセスの利便性向上については、今後とも関係機関等と協議していきます。
45	運営計画	現在学芸員は常勤7名非常勤2名は全国的に最低の人数だと思っている。博物館をよりよくするのは館長はじめ学芸員の能力いかににかかっていると思う。定員を増加される事を望む(民営化は継続性という事を念頭に検討されたい。真の人材をさがす)。	B	館長については、高い専門性と経営感覚をもち、リーダーシップを発揮して、総合的に博物館活動をマネジメントできる人材を配置することが必要であると考えています。また、学芸員についても、自然系・人文系の各専門分野や各分野を横断する総合的・学際的な分野など、多様な専門分野に対応できる職員を配置することが必要であると考えています。職員の配置については、今後検討していきます。
46	運営計画	現博物館の学芸員数は少なすぎる。	B	
47	運営計画	館長の人選は、十分に検討をしていただき、話題性豊かな情報を発信できる方法を模索してほしい。	B	
48	運営計画	博物館・資料館等の統合も視野に入れ、人員や資料を集めて充実するよう県や教育委員会が指導性を発揮してほしい。	B	新博物館は、県民・利用者のみなさんとともに、三重の自然と歴史・文化の資産の衰退等を防ぎ、県民の共有財産として保全し、適切に次代に引き継ぐための主要な役割を果たします。また、多様な主体と協力、連携して、充実した博物館活動を展開していくことができる能力を持った人材を職員として配置していく必要があると考えています。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
49	運営計画	毎年のランニングコストがかなり負担になると思うが、マンパワーの充実なしには文化活動はできない。「人材を育てる」という視点で事業を続けてほしい。豪華な立派な御殿を建てるよりも人間(人材)に金をかけてほしい。	A	「ともに考え、活動し、成長する博物館」運営の実現に向けて、地域の多様な人や機関・団体などと一体になって博物館活動を進める体制・しくみが整えることが必要です。このため、専門性や多様な主体と協力、連携して、充実した博物館活動を展開していくことができる能力をもった人材を、職員として配置していく必要があると考えています。
50	運営計画	総合文化センターのコンサートに来た人達に博物館の割引入館券を配るとか、美術館と博物館の共通割引券を作るとか、他施設とのタイアップができればよい。県内の登録博物館めぐりができるようなイベントや共通割引券、行けば行くほど次に入る博物館の入館料が安くなるなどよい。関西文化の日になんだ入館料無料のイベントにも参加して欲しい。	A	博物館の魅力や楽しみを高めるサービス展開のひとつとして、第8章 8-5 博物館の活発な利活用のための取組 (2)に「他の博物館などと連携した博物館見学ツアーや共通利用券の発行など、県民・利用者の博物館利用を広げるサービスを検討します」という記述を加えました。ご意見を参考に今後、具体的な内容を検討していきます。
51	運営計画	観光の三重の特異性を活かし県内外の来場者を見込める博物館に造り上げてほしい。	A	観光に訪れた方にとっても、魅力的な活動をめざすとともに、三重の魅力を伝え、全国にも発信するような博物館づくりを進めていくこととしています。
52	運営計画	入場料は有料を望む。館の運営保存継続のため、子供達(小学生以上)にはスタンプを発行し、満点になれば入場無料券とか記念品と代えるなどする。	C	基本展示・テーマ展示の観覧については、現博物館などと同様、原則的に有料とする方向で検討しますが、有料とする範囲や料金については、今後、県の他施設の状況等をふまえて検討します。また、多くの人に、気軽に繰り返し利用していただけるよう、交流創造エリアをはじめ、無料で利用できるスペースを十分に確保します。
53	運営計画	この計画の実現のためには、多くのスタッフが必要だ。必要なスタッフを確保してほしい。	B	専門性や多様な主体と協力、連携して、充実した博物館活動を展開していくことができる能力をもった人材を、職員として配置していく必要があると考えています。また、「ともに考え、活動し、成長する博物館」運営の実現に向けて、地域の多様な人や機関・団体などと一体になって博物館活動を進める体制・しくみが整えることが必要です。ボランティアを含めた人材の確保等、具体的な運営体制は、今後、検討していきます。
54	管理運営、事業費等	運営方法(事業スキーム)の再検討を希望する。	C	新博物館の使命・役割に沿って展開する博物館活動にとって適切な運営方式については、別途検討を行い、「附属資料」の「資料3 新県立博物館基本計画の関連調査の概要」 民間活力導入可能性調査～望ましい事業スキームについて～で記述しています。基本的な事業スキームは、今回の検討結果のとおりとした上で、県総合文化センターとの連携に配慮しながら、今後引き続き幅広い検討を行い、民間活力の導入をはかるなど、より効果的・効率的な運営のために体制や環境の整備を進めます。

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
55	管理運営、事業費等	”歴史と文化と自然の三重県”をスローガンにあげる以上、県は予算で優先的に博物館資料収集予算を組むようにしてほしい。	C	資料収集活動は、調査研究活動や活用発信活動とともに新博物館が果たすべき基本的な活動と位置づけています。こうした活動が持続的かつ着実に果たすことができる運営としますが、具体的な予算、人員等は今後、検討していきます。
56	検討体制・スケジュール	審議会委員の中に博物館に親しみ足を運んでいる人がいるのか。頭で考えるだけでなく展示を見て感動する感情を入れて意見を聞くべきだ。	A	三重県文化審議会は、附属資料 資料4 「新県立博物館基本計画」の策定経緯 参考1 に掲載しましたとおり、学校教育や都市政策、メディアなど文化に関する様々な分野の委員で構成されています。「新県立博物館基本計画」は、審議会委員と専門委員で構成する、新県立博物館基本計画検討部会において、博物館に関する専門家の視点から検討を行い、これを、三重県文化審議会ですらに幅広い視点から審議や検討してとりまとめたものです。
57	検討体制・スケジュール	基本計画検討部会委員に地域性や県民を入れる必要がある。また、建築や設計、照明などの専門家も必要だ。	B	新県立博物館検討部会委員については、附属資料 資料4 「新県立博物館基本計画」の策定経緯 参考2 に掲載しています。委員には、自然、人文、建築分野の専門家をはじめ、他博物館の学芸員、地域と博物館の連携事業を進めている方、博物館の体験展示を企画、実施している方、NPO代表者、学校教育関係者なども含まれています。今後、具体的な検討にあたっては、専門家や県内の団体、県民のみなさんご意見をお聴きしながら博物館整備を進めていきます。
58	全般	三重の博物館(新博物館)の特色のPRをお願いしたい。また、(建設に向けて)県民の声を大きくして、県議会や財政部局に届くようにしてほしい。	A	博物館の存在や活動理念、博物館の使い方や楽しみ方、多彩な事業内容などが広く県民・利用者に伝わるよう、さまざまな媒体を活用した広報活動や他の博物館などと連携した広報活動を、新博物館開館前の段階から積極的に展開します。県議会についても適宜説明し、ご意見をいただくことにしています。
59	全般	テレビ・広報誌などで、積極的に情報提供と発表発信していく必要がある。	A	
60	全般	多くの県民が利用・活用できるように、県民一人ひとりに、この計画の内容が届くように工夫してほしい。	A	
61	全般	本構想(計画)の各論を具体化する上で一般の人の意見を取り入れていくことが大切である。	B	

県民意見交換会での書面による感想・意見・質問 「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	事項	感想・意見・質問等	対応	具体的な反映状況・考え方
62	全般	博物館がなぜ必要かをもちきちんと押し出すべき。博物館のどの機能が現在不足していて、それがなぜ「新博物館」でないと出来ないのかをきちんと示せなければ「興味なし」の人が多数となってしまうと思う。	B	現博物館は老朽化が著しく、スペースも小さいうえに、耐震上の問題があり、展示を閉鎖するなど、あらゆる機能が十分発揮できない状況です。これまで現博物館が蓄積したものを新博物館に引き継ぎながら、今にふさわしい博物館として追加すべきものを加えた、新博物館の姿を基本計画に表しました。
63	全般	利用者側に立った博物館づくりを進めなければ人が集まる博物館にはならない	B	新博物館は協創の視点で、利用者側の立場に立ち、ともに考え、活動し、成長する博物館を活動理念としており、計画段階から取り組みます。
64	県民意見交換会の進め方	意見交換会の出席者が各自の立場を中心に意見を言っており、交換会の開催趣旨がよく伝わっていないのではないかと。	E	県民意見交換会は県民のみなさんのご意見を幅広くお聴きするものです。全体的な立場でのご意見とあわせて、個別の立場からのご意見もお聴きする場であると考えています。
65	県民意見交換会の進め方	本交換会(全会場)の議論、意見についての議事の公開、参加者へのフィードバックを希望します。	A	県民意見交換会で出していたご意見については、基本計画にできる限り反映するとともに、今後の検討に生かします。また、ご意見に対する具体的な反映状況・考え方をホームページで公開します。さらに、当日、書面にて提出いただいたご意見、ご質問等については希望された方へ直接回答させていただきます。
66	県民意見交換会の進め方	県民意見交換会で出た意見は今後どうなるのか。	E	
67	県民意見交換会の進め方	会議に参加した人すべてに発言してもらう必要はない。一部の人の発言により、会としてよくなかった。	E	限られた時間内に、出来るだけ多くの方のご意見をお聴きするため、参加者全員に発言をお願いしました。今後とも、一部の方の発言に偏ることの無いよう努めていきます。